令和7年7月9日
養老鉄道株式会社

保安監査の結果に対する改善措置について

当社の運転士1名が、アルコール検知器によるアルコール検査を実施せず、また助役が当該事実を認識していたにもかかわらず、当該運転士を乗務させていたことが判明し、令和7年5月13日に中部運輸局より保安監査をお受けしました。その後、6月13日に保安監査の結果を受領し、改善措置を講ずるよう指示されておりましたが、7月8日付で中部運輸局に本事案の改善措置を報告いたしましたのでお知らせいたします。

引き続き、改善措置の実施に取り組むとともに、基本に立ち返り、安全輸送に取り組んでまいります。

改善措置の内容

1. アルコール検知器の更新等による検査体制の強化

本人確認機能付き検知器を導入し、アルコール検査記録と運転士の紐づけを行うことにより、検査体制の強化を図ります。また、従来の乗務点呼の方法を検証し改善することにより、アルコール検査の体制強化を図ります。

2. 係員に対する教育等の実施

安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者及び助役による定期的な面談や乗務点呼時の確認強化により、現場の実態把握に努めるとともに、年間指導計画にアルコール検査に関する教育を明記し、定期的に教育指導を実施します。

3. 助役に対する教育指導の強化

安全統括管理者、運転管理者及び乗務員指導管理者が助役と定期的に面談を行い、日常業務の状況を随時確認して教育指導を行うことにより、助役に自らの業務の重要性等を再認識させます。

4. 経営管理部門による現場状況の把握及び必要な改善

上記の「係員に対する教育等の実施」「助役に対する教育指導の強化」等を通じて安全管理体制の実情を確認するとともに、安全統括管理者、運転管理者が定期的な現場巡視や面談等により現場の現状を把握することで自社の課題を見出し、見出された課題については管理職会議で対応策を協議し、早期改善を図ります。

以上